



ニューズレター

SDM NEWS



慶應SDM公開講座 空き缶衛星から始まるイノベーション：高校生から社会人までの多様な参加者による集合写真

11

2013年 月号

行事予定

2013年11月30日(土)
慶應SDM研究科説明会
@日吉キャンパス
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/10/31-095448.html>
要事前登録 無料

2013年12月8日(日)
SDM研究所公開講座
対談「公共哲学×システムデザイン・マネジメント 幸福2.0」
@日吉キャンパス
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/10/30-100704.html>
要事前登録 無料

2013年12月13日(金)
慶應SDM公開講座 テクノロジーとデザインとアートの境界線がなく、産業区分もなく、プロではなくユーザー中心で質量があるとダサく、言語化できないことがほとんどで、すべてのビジネスはアートとなる時代の話
@日吉キャンパス
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/08/28-180606.html>
要事前登録 無料

慶應義塾大学イベントカレンダーをご利用ください。

http://www.keio.ac.jp/ia/event/201311/201311_index.html

通算60号 2013年11月発行



専任教員からのメッセージ

新しい時代のアーキテクトを目指して



現在の日本は高度な技術力や製品開発力を持っていますが、これからの時代はそれだけでは不十分で世の中を変えるようなイノベーションを起こす力の方が重要だと言われています。慶應SDMでは、このような時代の流れに対応して、高い視点に基づいて全体を俯瞰的に捉えるシステム思考と、コラボレーション・共感・プロトタイピングを重視するデザイン思考の両思考を兼ね備えた新しい時代のアーキテクトの養成に力を入れています。また、慶應SDMでは講義や研究以外にも様々な活動を行っていますが、2013年9月号のSDMニュースで紹介されましたように、今年9月に開催されたETロボコン2013 東京地区大会において、我々、慶應SDMと株式会社富士通コンピュータテクノロジーが産学連携チームを組織し、アーキテクト部門Bブロックで総合優勝しました。そこで特に評価されたことは、斬新なコンセプトを企画立案し実現する能力でした。楽しく競い合ったこのようなコンテストですら、新しいコンセプトを作るアーキテクトが要望されていることを実感した次第です。これからも、このような教育、研究等の活動を通じて、慶應SDMから明るい未来を構築できるアーキテクトが多く輩出することを願っています。

SDM研究科教授 春山真一郎

最近のニュース

TOPIC 1 APCOSEC2013開催



JAXA 向井利典博士Distinguish Pioneer Award授与式

2013年9月8日(日) から9月11日(水) の4日間に渡り、日吉キャンパスにてAsia-Pacific Council on Systems Engineering Conference (APCOSEC) 2013が 開催された。初日の9月8日には、SysMLをつくった中心メンバーの一人であるSanford Friedenthal氏によるモデルベースシステムズエンジニアリングの1日ワークショップと、慶應SDMによるシステムズエンジニアリング入門のワークショップが開かれた。また、2日目からは基調講演と3つのパラ

レルセッションによる研究の発表が行なわれた。2日目のオープニングでは、JAXA 向井利典博士にDistinguish Pioneer Awardが授与された。基調講演では、伊勢神宮の小堀邦夫文化部長、情報処理振興機構ソフトウェア高信頼化センター所長の松本隆明博士、及びソニーコンピュータサイエンス研究所の所長眞理雄博士にご講演いただいた。APCOSEC2013に先立って開催されたInternational Council on Systems Engineering (INCOSE)のボードミーティングに参加していたINCOSEボードメンバーも参加し、合計150名以上の参加があり、最新のシステムズエンジニアリングに関する研究成果について活発な議論がおこなわれた。

TOPIC 2 イノベーション対話ツールの開発



日吉キャンパス キックオフワークショップの様子

慶應SDMは、COIストリーム・シーズニーズ事業の一部である「イノベーション対話ツールの開発」を受託し、イノベーション対話ツール

の開発を進めている。このイノベーション対話ツールとは、イノベーション創出に向けたワークショップを大学が自らデザインし、実施するためのガイドライン、テンプレートをつくるのが目的となっている。慶應SDMがこれまでデザインプロジェクト、OpenKiDSなどの公開ワークショップ、企業研修、そして企業との共同研究などを通じて作り上げてきたイノベーション創出に向けたワークショップデザイン・運営のノウハウを元に、今年度の委託事業を通じて、より使い易いツール開発を目指す。この委託事業は、大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業として文部科学省に採択された全国30の大学等の機関と協力して進められる。具体的には、各

大学等の機関と慶應SDMが協力してイノベーション創出に向けたワークショップを実施することで、そこで得られた知見を元に、イノベーション対話ツールを改訂する。このため、2013年9月16日(月)～18日(水)の3日間にわたり、日吉キャンパスにてキックオフとして集中ワークショップをおこなった。このワークショップでは、各機関関係者を中心に約80名が慶應SDMの考えるイノベーション創出に向けたワークショップに参加するとともに、実際に自らデザインすることも試行した。その後、日本各地を周りながら、その機関にあったワークショップをデザインし、実施することを進めている。

TOPIC 3 長岡市と多世代健康事業モデル研究会の設立



長岡市での研究会設立発表会見の様子

慶應SDMでは、長岡市、企業コンソーシアムと共同で「多世代健康事業モデル研究会」を設立し、2013年9月26日(木)に長岡市で発表記者会見を行った。長岡市は少子高齢化や人口減少に対する内閣府による支援策である「特定地域再生事業計画」に認定され、「多世代の健康」をキーワードに、民間企業と連携した健康サービス事業による中心市街地の活性化を目指している。これに対して、映像、スポーツ、食事等のコンテンツを中心とした都市デザインに関する研究を行っている、次世代コン

テンツ利用研究ラボの小木哲朗教授、当麻哲哉准教授、神武直彦准教授等が協力することになったものである。同研究会には、健康マネジメント研究科の佐野毅彦准教授、小熊祐子准教授が医療やスポーツマネジメントの立場から参加する他、bjリーグ、ソニービジネスソリューション、タニタ等の民間企業で構成される企業コンソーシアムが参加する。アオーレ長岡の建設等、先進的な取り組みを行っている長岡市で、今後は健康サービス事業による街づくりという新しいテーマに取り組んでいく。

TOPIC 4 慶應SDM公開講座 脳とビッグデータ

脳科学者である茂木健一郎特別招聘教授による「脳とビッグデータ」と題した公開講座が2013年10月8日(火)に日吉キャンパスで開催された。ビッグデータ時代を迎えた現代を俯瞰し、人間の認知の原理、進化の可能性、そして幸福や創造性といった課題への応用の方向性についての様々な具体事例に基づく解説と議論が行われた。例えば、街の様子を撮

影した写真1枚を使って、人それぞれがそこから得る情報が異なること、つまり、意識しているものは見えているが、意識していないものは見えていないということなどの実験が行われ、「もともとビッグデータは脳の中にもあり、そのデータは脳の中で流れてしまっていて、我々の生活ではその一部をかすめ取って生きている。」という解説に対して、200名程度の参加

者からは様々な質問が投げかけられた。また、公開講座の途中で今年のノーベル物理学賞受賞者の発表が行われたため、茂木教授による解説を受けながらそのライブ中継を視聴するというサプライズの演出もあり、参加者にとっては気づきや驚きの多い講座であった。

TOPIC 5 慶應SDM公開講座「社会貢献」のデザイン・マネジメント -慶應義塾出身のNPO経営者と語る in 日吉- 開催

NPOをどのようにデザインし、マネジメントすることで社会貢献できるのかを議論することを目的として、2013年10月16日(水)に3名のNPO経営者を協生館にお招きし、公開講座を開催した。今回の公開講座では、慶應義塾大学を卒業された「農家のこせがれネットワーク」代表理事 宮治勇輔氏(2001年総合政策学部卒)、「3Keys」代表理事 森山誉恵氏(2012年法学部卒)、「放課後NPOアフタースクール」代表理事 平岩国泰氏(1996年経済学部卒)が講演、パネルディスカッションを行うというスタイルで議論を進めた。まず、それぞれのご経験に基づく社会活動の事例紹介をして頂いた上で、NPOを始めるきっかけや、そのはじめ方、また、NPOを取り巻く環境についてのお話を頂いた。その後、70名程度の来場者の方からのご質問やご意見をポストイットに記載頂き、モ

デレータの神武直彦准教授がそれを回収、整理し、それをもとにパネルディスカッションを行った。社会貢献を行う際の選択肢のひとつとして、NPOに参加する、NPOを立ち上げる、といったことをより具体的に議論することができ、「NPOで社会貢献することのデザインパターンのようなものをまとめていくべきでは」という意見など次のステップに発展するような議論がなされた。

農家のこせがれネットワーク:

▶ <http://kosegare.net/>

3Keys:

▶ <http://3keys.jp/>

放課後NPOアフタースクール:

▶ <http://www.npoafterschool.org/>



宮治勇輔氏による講演



3名の登壇者によるパネルディスカッション

TOPIC 6 慶應SDM公開講座 空き缶衛星から始まるイノベーション -高校生や大学生による衛星開発コンテストと宇宙サービス創造ワークショップ- 開催

人工衛星の超小型化技術は日々発展しており、その試みは産業界のみならず、大学、高校と広がりがつある。その現状の共有と、それを踏まえたイノベーション創出のための試みのひとつとして、人工衛星による社会イノベーション活動に関与しているJAXAや産業界、大学生、高校生の方々をお招きし、2013年10月13日(日)に二子玉川ライズカトリストBAにて公開講座を開催した。まず、神武直彦准教授が人工衛星によるソーシャルイノベーションの具体的な事例と今後の可能性について講演を行い、それに続いて4名の方が講演を行った。坂本啓 東京工業大学助教からは模擬人

工衛星CanSatからはやぶさに至る人工衛星までの規模の違いによる機能や性能の違い、中村友哉 アクセルスペース代表取締役社長からは大学生によるCanSat惑星探査コンテストAXELSPACE CUP、秋山演亮 和歌山大学宇宙教育研究所所長からは高校生によるCanSatコンテスト「CanSat甲子園」、そして、法政第二高等学校の先生および学生の皆さんからは今年度のCanSat甲子園準優勝に至るまでの努力や喜びについてお話を頂いた。その後、宇宙航空研究開発機構イノベーション創出検討会企画による来場者参加型の「宇宙サービス創出ワークショップ」が慶應SDM研



宇宙サービス創出ワークショップ

究科開発の手法などを用いて行われ、最後にAXELSPACE CUPの表彰が行われた。高校生から大学生、大学院生、また、産官学に属する社会人といった多世代でこれからの宇宙サービスを議論する良いきっかけになった。

大学宇宙工学コンソーシアム:

▶ <http://www.unisec.jp/>

AXELSPACE CUP:

▶ <http://axelspace.com/axelspacecup/>

缶サット甲子園:

▶ <http://www.space-koshien.com/cansat/>

TOPIC 7 古田秘馬氏の公開講座を開催



会場の様子

2013年10月23日(水)に株式会社UMARI代表の古田秘馬氏による慶應SDM公開講座「新しい世界のコンセプトを創造する! インフォメーションテクノロジーの時代からインスピレーションテクノロジーの時代へ」を行った。古田氏は、自らプロジェクトデザイナーと名乗って

いる通り、丸の内朝大学、六本木農園、麒麟絆プロジェクト、ライフスタイルマガジンD30など、数々の企画のヒットで知られる。協創の時代、集合知の時代といわれる現代を象徴する人物と言っても過言ではない。このたびのご講演では、活動の概要や基本的な考え方について

密度の濃いお話をしていただいた。示唆に富んだ講演だったが、印象に残った言葉の一つは、「企画に対して、人が最初に行動するのはコンセプト、継続して来るのはコンテンツ」である。講演タイトルは、これからはいかに人々のインスピレーションを形にするかが問われる時代である、というメッセージであった。



講演する古田氏

TOPIC 8 兼松佳宏氏の公開講座を開催

2013年11月8日(金)に、greenz.jp 編集長の兼松佳宏氏の公開講座が行われた。greenz.jpでは、「ほしい未来は、つくろう」をキャッチフレーズに、社会課題を自分の問題として解決する活動を毎日2本ずつピックアップするWEBマガジンを発行している。ソーシャルデザイン

のムーブメントを作った兼松氏が、今回の講演では、「空海とソーシャルデザイン」と題し、空海が行ったことは日本のソーシャルデザインの先駆的事例であるという話について述べてくださった。ソーシャルデザインの思想に関する深い考えが聞けて有意義であった。



講演する兼松氏

TOPIC 9 修了生の麻生陽平講師が2012年度日本創造学会論文誌Vol.16における論文賞を受賞

2013年10月27日(日)、日本創造学会第35回研究大会にて、慶應SDM修士課程の修了生麻生陽平君(現非常勤講師)、白坂成功准教授、保井俊之特別招聘教授、前野隆司教授による論文「2×2欲求マトリクス -心理的価値に基づく利他的コンセプト創出法-」が、2012年度 日本創造学会論文賞を受賞した。本研究では、人の利他的な欲求にフォーカスし、心理的価値の視点からサービスや商品、企画などのコンセプトを創出する手法を新たに開発した。

慶應SDMにより開発されたWCA(欲求連鎖分析)の元になるマズローの欲求と、利己-利他・自力-他力の軸をかけあわせ作成した2×2マトリクスをマーケティングのプロセスに活用し、実践の中でその有効性を検証した内容となっている。1979年に川喜田二郎氏らによって創設された日本創造学会では、世界の創造性教育や研究動向、企業の創造性促進、イノベーションなどの研究が多様な会員によって議論されている。



日本創造学会論文賞授賞式の様子

ラボ・センター紹介

アーキテクティングラボ (Architecting Laboratory)

担当教員: 白坂成功准教授、前野隆司教授



田子氏のプロダクトについて議論する様子



デザイナー田子氏によるアーキテクチャの説明

研究領域

アーキテクティングラボでは、システムの構成を創造する方法論である「アーキテクティング」についての研究を行っています。アーキテクティングという方法論は、技術システム、社会システムを問わず使われるもので、新たなシステムや仕組みをデザインするときに欠かすことができない方法論として注目を集めています。ITやソフトウェア分野におけるアーキテクトに限らず、ソーシャルシステムアーキテクト、ビジネスシステムアーキテクト、更にはイノベーションアーキテクトなどの役割が生まれて来ています。このアーキテクトが持つべき能力であるアーキテクティングの共通的な考え方を理論化すること、及びその理論を用いてさまざまシステムに対してアーキテクティングを実践していくことを目指して週末にゼミを開催しています。このラボでは、博士課程の学生を中心に、修了生、学外の研究者等が自発的にテーマを持ち寄って参加し、活発に意見交換を行っています。

基本的知識の習得

アーキテクティングの基本的な知識として、ISO42010 Architecture Descriptionや、現在制定中のISO42030 Architecture Evaluationなどの標準を理解することはもちろん、システムアーキテクチャの古典的名著である「The Art of Systems Architecting」の輪講をするなど、アーキテクティングの基本的な知識の習得を行ないます。

アーキテクティングの実践

実際に様々なシステムにアーキテクティングを行うために、映画、音楽、俳句などのアーキテクチャ分析をはじめ、漢字のアーキテクチャや怨霊のアーキテクチャなど、参加する学生の興味にあわせたアーキテクチャ適用事例を自由に議論しあいながら、アーキテクチャという考え方をより深めていきます。また、各学生の研究におけるアーキテクチャや世の中の最新動向の報告なども積極的に行なわれています。



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management